様式第２号

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">平成２５年度　第４回豊中市図書館協議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２５年（２０１３年）１０月１日（水）１８時３０分～２０時３０分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>豊中市立岡町図書館　集会室</td><td>公開の可否</td><td>㊀・不可・一部不可</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td>岡町図書館</td><td>傍聴者数</td><td>６　人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開しなかった理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員</td><td colspan="3">松田 美和子　杉浦 公男　鵜川 まき　橘髙 美那子　舟岡 直子
大野 俊介　森山 みさと　岸本 岳文　渥美　公秀　村上 泰子</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">足立教育次長　羽間理事　小川参事　堀野岡町図書館長　大原野畑図書館長
北風千里図書館長　木村庄内図書館長　中田岡町図書館副館長　江口岡町図書館副主幹　藤原岡町図書館副主幹　川上千里図書館副館長　前川高川図書館長　須藤蛍池図書館長　松井岡町図書館副主幹　西口岡町図書館主査　上杉岡町図書館主査</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議題</td><td colspan="3">1　委員の紹介と委員長の選出
2　図書館の施設配置について
3　その他</td></tr>
<tr><td colspan="2">審議等の概要
（主な発言要旨）</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

平成２５年度（２０１３年度） 図書館協議会

日 時：平成２５年（２０１３年）１０月１日(火) １８時３０分～２０時３０分
場 所：豊中市立岡町図書館 ３階集会室
出席者：（敬称略）
委　員　松田　杉浦　鵜川　橘髙　舟岡　大野　森山　岸本　渥美　村上
事務局　羽間　小川　堀野　大原　北風　木村　中田　川上　前川　須藤　江口　藤原
西口　上杉　松井

開 会
資料確認
事務局　教育委員会事務局羽間理事よりあいさつ
委員の紹介
事務局職員の紹介
委員長及び委員長職務代行者の選任について
＊羽間理事を仮委員長として、委員長の選任を行った。

●事務局
図書館条例第６条第２項で、協議会の委員長は委員が協議して選出することになっている。また、第５項で委員長に事故ある時は、あらかじめその指定する委員がその職務を代行することになっている。まず委員長の選任をしていただき、次に委員長から同職務代行者を指定していただきたい。なお、委員長の任期は委員の任期によると定められており、平成２７年６月３０日までとなる。

●仮委員長
それでは委員長の選任について、ご意見をいただきたい。自薦、他薦いずれでもかまわない。

●委員
全国でもトップレベルの図書館サービスを誇る滋賀県で、長年公立図書館のサービス構築に尽力されて、公立図書館に造詣の深い岸本委員を委員長に推薦したい。

●委員
私も岸本委員を推薦する。

●仮委員長
ただいまお二人の委員から委員長に岸本委員の推薦があった。皆さんいかがでしょうか。
（一同拍手をもって承認）
それでは、岸本委員が委員長に選出された。委員長席にお移りいただき、ご挨拶と委員長職務代行者の指名、議事の進行をお願いしたい。

●委員長

滋賀県から見ていると、豊中の図書館協議会の活動は非常に活発だという印象を持っている。そのなかで、委員長の大役を果たせるか不安ではあるが、皆様のご協力をいただきますよう、よろしくお願いします。

実はこちらに来る前に、私が滋賀県立図書館に入る年にお辞めになった職員のご子息が、堺の方の大学で教えておられ、滋賀の図書館についてまとめたいとのことでお会いした。すっかり忘れていたような３０数年前のいろんなお話をしたが、あらためて私たちの仕事は、先輩の方々が築き上げてくれたもの、これに支えられているのだということを、本当に実感した。図書館の仕事というのは、そうした長い積み重ねの上で今の仕事があるのだと。そういうことを決して忘れてはいけないというようなことをお話しした。そうした意味で一つ一つ積み重ねて、また次の世代に引き継いでいく必要があると思う。よろしくお願いします。

それでは、委員長職務代行者には、渥美委員にお願いしたいが、いかがでしょうか。

（一同拍手をもって承認）

●委員長職務代行者

代行というと、お休みの時にするだけかと思っていたが、委員長のすぐ隣で学ばせていただきたいと思う。どうぞよろしくお願いします。

●委員長

それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。この図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則的に会議を公開しており、今日も１０名近い方が傍聴に来ておられる。傍聴については１０人を定員にしているが、ご希望の方が定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということでよろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容についてはご報告する。

それでは議題に入りたい。

●事務局

委員長。急でございますが、豊中市立岡町図書館長から図書館協議会委員長に諮問をさせていただきたい。

豊中市立図書館における今後の戦略的な施設配置について（諮問）―　特色ある図書館づくりや、地域の知の拠点としての施設のあり様などを踏まえた、今後の戦略的な施設配置について諮問いたします。

諮問内容について、少し捕捉説明をさせていただきたい。

市は「新・豊中市行財政改革大綱」を策定し、行財政改革を進めて、平成２５年に、特定事業の見直しについて、平成３２年（２０２０年）を目指した見直しを示しました。そこで平成３２年度の図書館のあるべき姿やサービス水準、およびコストの指標などを想定しているのが、特定事業の見直し項目である。資料１１の「指定管理者制度（部分委託のあり方を含む）の導入について（答申）」という資料

の１ページの下半分囲みの部分が、特定事業の見直し項目である。これについては、前期の図書館協議会でもご説明させていただいたところであるが、今回新しく委員になられた方もあることから、簡単に説明させていただきたい。

まずは、Aから F をご覧いただきたい。本市の図書館事業の独自性として、Aの①②③を掲げている。学校図書館と公共図書館の連携ということでは、学校図書館に司書が配置されて２０年を経過し、連携が進んできたところで、公共図書館からの資料提供がよりスムーズになったり、あるいは物流の整備が進むなど、３年前から「とよなかブックプラネット事業」に取組み、学校図書館と公共図書館の資料を結ぶ学校図書館支援システムを構築して、今本格稼働しているところである。それらを総合して、さらに連携を強化し、発展していきたいという部分が、①のところである。

②については、地域の課題解決に向けて、市民との協働や関係機関との連携などを通じた支援として、特に市民との協働に関しては、「協働」という言葉が広く使われる前から、子どもの読書環境を良くしたいという思いで、豊中子ども文庫連絡会と協働で事業に取り組んだり、また文字を読みにくい人の読書を支えるために、大阪声のグループや豊中点訳会とともに取り組んできた経緯がある。今後も地域の改題の解決に向けて取り組んでいくのだが、子育て支援や就業支援など、地域の課題解決のための情報提供、新たな事業展開を拡充していきたいと考えているところが②である。

③については、北摂アーカイブスという、昔の写真をデジタル化して市民の提供写真を公開する事業がある。地域の記憶を記録にして、次世代にバトンタッチしていくという事業で、市民が学びの成果を発表し、それらを地域に還元していく場をつくっていくという取組みを行っている。これら３点のあるべき姿を通じて、学びのまちづくりを実現していくという、あるべき姿があり、図書館協議会においてご議論いただいたところである。

B C D については、答申にもふれておりますので、今ここでは割愛させていただきたいと思うが、E の「あるべきサービス水準・コストを実現する手法」という部分については、前期の図書館協議会で諮問し、答申をいただいた項目である。次の F にあたる施設配置については、今諮問をさせていただいたところである。今回、図書館の施設配置に関して、前回の図書館協議会の答申８ページの項目１２にあたるが、「今後の戦略的な施設配置については、市全体の施設の複合化多機能化も視野に入れつつ、老朽化施設の再配置を考えるに際しては、関数の見直しなども考える必要がある。しかしながら、館数の見直しや再配置については、各地域ニーズへの対応や図書館ネットワーク機能を担保できるよう考慮しなければならない。」とある。南部地域の活性化を目指して、（仮称）南部コラボ構想の進捗状況も見据えながら、現在４地域館４分館１分室の９館体制で運営している状態であるが、いかに有効に図書館の機能を活用できるか、先ほど申し上げた、あるべき姿を実現するために、効果的効率的に進めていく必要もあることから、施設・各図書館のあり様が重要であると考えていることから、今回の諮問とさせていただいた。

また、豊中市の市有施設の有効活用計画の方でも、様々な視点から個々の市有施設の検討を行い、図書館も特定施設にあがっており、有効活用方策の策定もすすめられているところである。

私の諮問の趣旨は、以上である。

●委員長

ただ今岡町図書館長から「豊中市立図書館における今後の戦略的な施設配置について」諮問を受けた

が、これは前期の図書館協議会の答申のなかでも、今後の課題として指摘されていることころである。さっそくこれについて審議に入りたいと思うが、いかがでしょうか。
（意義なし）

●委員長
では、さっそく審議にはいりたい。まず事務局から今回配布していただいた資料について説明をお願いする。

●事務局
（説明）それでは、資料１の施設配置図についてご説明させていただきたい。豊中市の地図をベースにしているが、下の方に凡例がある。丸印が豊中市立図書館、二重丸が動く図書館のステーション、□で囲まれたポイントが、吹田市立図書館、三角が箕面市立図書館となっている。
豊中には図書館が９館ある。実線で太線の９つの〇が豊中市立図書館である。この〇の半径は、図書館を中心とする１ｋｍを〇で囲んでいる。
あと、箕面市立図書館等と広域連携しているので、北（上）になるが、箕面市立図書館が二つある。箕面市立西南図書館と箕面市立萱野南図書館である。それぞれの半径１キロを破線で表している。この図で右側、東側には吹田市がある。吹田市とも広域連携しているので、４つの図書館があり、□で囲んで表示している。北から千里図書館・山田図書館・千里山佐井寺図書館・江坂図書館、それぞれ半径１キロの円で表示している。
さらに交通機関も入れている。国道と主な鉄道については、南北に走るのが東側から順に阪急千里線、その次に千里図書館の辺から南に延びているのが地下鉄なので破線で表している北大阪急行線、さらに西側を南北に走っているのが阪急宝塚線。東西を横切って大阪モノレールが走っている。主要道路としては、南北に走っているのが西側から順に阪神高速１１号池田線。国道１７６号線は阪急宝塚線に沿うように走っている。モノレールに沿って走っているのが中国自動車道。真ん中あたりから北東に斜めに横切っているのが府道２号線。これは岡町図書館のそばを通っている。真ん中より少し南側を横切っているのが、内環状線で、その南に名神高速道路が東西を横切っている。
この図の中で他に示しているのは、動く図書館のステーションを◎で、小学校を文で、中学校を㊤で分けて表している。この図の網目は町丁目までを区切って表示している。
続けて資料２の地図の説明をさせていただく。年間貸出人数1,000人－町丁目ごと－館ごと等値線、これも右下に凡例を表示している。〇印が豊中市立図書館、◎印が動く図書館ステーション。地図の構成は同じですが、色分けされている単位は町丁目ごとで、緑の濃淡をつけている。これはその町丁目の人口を表している。一番多いところが６，７６０人で、これは４月１日現在の人数である。少ないところは、住んでいる方がいない緑地公園などが０人で、真っ白に表示されている。この地図は町丁目ごとの人口がグラデーションで表示されているが、その上に図書館を囲むように太い実線が表示されている。この円が何を表示しているかというと、貸出人数が１，０００人というポイントをつないだ円になっている。統計で町丁目ごとに、岡町図書館の利用何人、庄内図書館の利用何人、高川図書館の利用何人と、各図書館の利用者が出る。このデータは２４年度の統計である。１年間で１，０００人の貸出人数になるところをつないだとご理解いただきたい。あくまで便宜的な表示になっている。町丁目の単位なので、１

２００人の貸出人数の町丁目と、８００人の貸出人数の町丁目が隣り合わせになっていると、その間をポイントしてつないでいった。それぞれの図書館から年間１０００人に貸出したという町丁目をつないで表示した地図になっている。

次に資料３と４をご覧いただきたい。豊中市立図書館施設概要一覧とサービス状況一覧になっている。これら２枚は現在の豊中市の９つある図書館の規模などを示している。資料３の施設概要一覧では、施設の大きさ、単独の建物であるか、複合施設であるか、蔵書冊数、昨年度の貸出冊数、貸出人数などを示している。先ほどの地図で、それぞれの１キロ圏内の範囲を表していたが、建物の規模や貸出冊数などに大きな違いがあることがお分かりいただけると思う。資料４のサービス状況一覧において、それぞれの館の立地条件、主だった事業内容、それから取組みの短期ビジョンなどを挙げている。施設概要とあわせてご覧いただいて、現在のそれぞれの館の特徴をとらえるための参考にしていただきたい。

次に資料の５・６・７は、参考としてこれまでの図書館協議会の答申・提言の一部をお送りしたものである。資料５として昭和５６年の「図書館システムを完成させるための長期計画について(答申)」、資料６は「豊中市における図書館施設計画について（提言）」、資料７はこれら答申・提言を受けての「図書館施設整備計画について」である。ここまでがあらかじめお送りしていた資料である。

続いて本日配布の資料についてご説明させていただく。はじめに資料８「豊中市立図書館連携と協働ネットワーク図」は、前回図書館協議会の答申の最終ページＰ１２に掲載しているものも見ていただきたいのだが、それを元に今度は図書館の９館がどの市民団体・行政の部署とつながっているかが分かるように示した。以前の図は図書館でひとくくりにしていたが、今回の諮問にあたり各図書館が各地域でどのようにつながっているかを見ていただきたいと思い、資料８を作成した。図書館９館全部がつながっている団体もあるので、その部分については、表の下の方の四角い枠の中に、例えば市内小学校４１をはじめとする公共施設を記載し、右隣が「豊中図書館の未来を考える会」をはじめとした市民団体となっており、この二つについては、豊中の図書館９館すべてがつながっていると考えており、双方向の矢印で結んでいる。市内の小中学校とは、学校からの図書館見学や職業体験をはじめとして連携している。学校図書館については、資料提供などを含め、特に各図書館とその周辺の小中学校とは密接につながっており、学校司書が気軽に近くの担当館に相談に来られて日常的にサービスを提供している。右側にある「豊中子ども文庫連絡会」とは、ブックスタート事業とか講座やまつりの開催でつながっている。「おはなしボランティアポケット」とは、ボランティア講座の講師をしていただいたり、ブックスタート事業とか図書館でのおはなし会なども一緒に運営させていただいている。右下には、つながりを表す線の凡例を載せている。資料提供は直線。連携事業は破線。その他を点線と、ざっくり３つに分けてあらわしている。岡町・庄内・千里・野畑の４つの地域館は、それぞれの館で地域との協働事業を行っているので、連携先が多くなっている。庄内図書館ならば、図書館の廃棄本をボランティアによって販売し、その収益を地域でのイベントや町おこしの事業に還元するという取組み「しょうないＲＥＫ」事業で、「地球ママくらぶ」とか商店街とか、「アジェンダ２１」とつながっている。また販売ボランティアの市民の方々は、庄内エリアにお住まいの方々が多くなっている。また、分館である服部や高川などの小さい図書館でも、そのサービスエリアで活動されている団体・市民と連携している。東豊中図書館ならば、「大人のための朗読サロン草の実会」など、その地域で特につながりの深い団体については、四角い枠に少し影をつけている。その中は、その図書館と特に密接につながっている団体ということで表している。一つの団体が複数の図書館とつながっているので、複数の線で表している。左下の方に豊

中点訳会・大阪声のグループ・グループエコーという枠があるが、対面朗読などの障害者サービスに関わってつながっていて、豊中の図書館では対面朗読を希望された図書館で受けていただけるようにしており、ボランティアグループの方に各図書館に来ていただいている。ここに書いている団体以外にもつながっているところはあるのだが、概観できるようにこのように表した。また、各団体同士が図書館を介さずにつながっているというようなことも当然あるが、今回はそのつながりの線は記入していない。図書館とのつながりという点で見ていただくように作成した。

続いて、Ａ３の資料９をご覧ください。この資料は前回の諮問時にも資料として提出させていただいた。図書館９館と読書振興課がどのような業務を行っているかをメニューのように表して、それぞれ行っているところを、●は中心館として実施しているもの、◎を地域館で実施しているもの、○を各館で実施しているものというように示している。右上に図書館の組織上の関係を載せている。岡町図書館の分館として服部図書館、庄内図書館の分館として高川図書館および、分室として庄内幸町図書館、千里図書館の分館として東豊中図書館、野畑図書館の分館として蛍池図書館が設置されている。

続いて資料１０は、平成１６年度末に図書館協議会から提言をいただいた「これからの豊中市立図書館の運営のあり方について」である。Ｐ６に「施設のあり方の検討」として、施設について提言をいただいた部分が掲載されている。計画の見直しも検討する必要があるということが書かれている。

そして資料１１が、今年６月にいただいた答申「指定管理者制度（部分委託のあり方を含む）の導入について」である。答申の施設のあり方に関するところは、先に館長がご説明したとおりである。

最後に資料１２が「豊中市の図書館活動」本編と統計・資料編の２冊である。平成２４年度一年間を豊中市の図書館はどのように活動してきたかということをまとめたものである。これについてはまた後でご説明させていただきたいと思う。資料の説明は以上である。

●委員長

資料の種類が多く、なかなか一度で把握しきれないところもあるかと思うが、ただ今の事務局からの資料説明についてご質問・ご意見をいただきたいと思う。発言される際は手を挙げていただき、私が指名してからのち、マイクを使って発言いただきたい。

●委員

今日、諮問内容を聞いたが、事前に資料を検討するためにも、もう少し早く資料を用意してほしかった。まだざっと見たところで、諮問に対してどのようにこれらの資料を読み込めばいいか、まだ少し戸惑いがある。

●委員長

確かに資料の種類も多く、読み解くところから始める必要がある。なかなかまとまった資料が出てこないことも多いが、豊中の図書館ではこうした形で資料が出てくるということは、自分達の仕事を振り返りまとめているということで、いろんな視点から現状を整理した資料になっていると思う。図書館の人間にとってはわかりやすい部分があっても、もう少し一般利用者の方々に読み解いていただくのにはまだ説明を加えないと難しいところがあるだろうが、今日も現状を分析する資料が追加して出されているので、これらの資料の読み込みのためにも、いくつかの質疑を通して共通理解につなげたい。

●委員

資料２の、年間貸出冊数１，０００人町丁目の資料に関して質問だが、たとえば、岡町図書館の年間利用者１，０００人を表す大きな円の中に、小さな円が見える。また、館によって円の大きさにも随分差がある。たとえば、庄内幸町は二重の円になっているが、どういう意味だろうか。

●事務局

岡町の大きな円の中に小さな円が見えるのは、たまたまそこは１，０００人に満たなかったという意味である。庄内幸町図書館の周りが二重円になって見えているが、これは庄内幸町の円の内側に、庄内図書館の円もたまたまできたため、二重円になっている。

岡町図書館など大きな館は、サービスできている範囲が広範囲になっていて、庄内幸町は図書館の周りの狭い範囲に対してサービスを行っている様が表れている。円の範囲が広ければ広いほど営業力があるということである。

●委員長

この円は人口に対する割合でなく、絶対数で表わされており、下の色の濃淡つまり人口と合わせて考えないといけない。人口に対する割合ならばもう少し理解しやすいかもしれないが。そのことも加味しながら見た方がよいと思う。当然人口の密集地では大きい円になる。元々人口の少ないところでは、小さい円になる傾向があり、見た目では広がりに欠けるように映る。実際読むときには、これを人口割で換算するという工夫もここではできるかと思う。

●委員

資料３と４に、豊中市立図書館の施設概要一覧とサービス状況一覧があるが、これらに関して質問する。もう少し各館の抱えている課題とくに施設面の課題について、施設の老朽化とか手狭ということがあれば、館別に補足説明を聞きたい。

●委員長

まず課題が明らかになってこないと議論しにくいので、事務局から簡単にそれぞれの館の現状を、とくに施設面の問題で課題と認識していることがあれば、図書館ごとに説明してほしい。

●事務局

施設面の課題としては、岡町図書館は施設の老朽化が進んでいることと、古い建物を改装してきたため、使いにくさがある。昨年度耐震工事を行って、ＩＳ値が０．３未満であったものを０．６までは到達せず０．５をクリアした状況である。そのほか、台風などが来る度に雨漏りなども生じている。

庄内図書館は、昭和５０年（１９７５年）に開設し、非常に古くなっている。２０年ほど前に一部改修を行ったものの老朽化が進み、補修を続けながら今に至っている。老人福祉センターと公民館との複合施設であるが、周辺にもいくつか老朽化した市の施設があり、それらを含め南部地域の施設の見直しの話も検討されつつある。

庄内幸町図書館も、平成５年（１９９３年）に建ち、もう２０年を経過しかなり古くなってきた。この施設は元々フロア面積の小さなペンシル型の４階建ての建物で、２年前に一部機能をリニューアルした。３階に地域の方々への一般成人向け資料と絵本を置いてサービスを行っている。現在２階を学校図書館支援ライブラリーに特化し、全市に向けて教員支援資料や調べ学習パックなどを送り出している。

高川図書館は比較的新しく、平成１２年（２０００年）に開設した複合施設の図書館である。位置的に吹田に近い。

千里図書館は、平成２０年（２００８年）にリニューアルオープンしたところで。千里中央の駅前に立地し便利であることから利用が多く、図書館をゆっくり利用したいという滞在型利用の希望も多いが、席が埋まっていて、滞在にはあまり適していない。そういうところが課題だと思っている。

東豊中図書館は、平成５年（１９９３年）に開設し、２０年が経つ。最寄の駅からは離れているが、地域の方の利用という点では、ゆたか幼稚園との複合施設という特性もあり、実際に子育て世代の利用が多く、また高齢の方の居場所としての利用も多い。どのようにして利用者の満足につなげるか、課題と考えている。

野畑図書館は、市の北部に位置し、昭和６３年（１９８８年）開設した。周辺に野畑小学校以外の公共施設がないため、図書館の集会室を自治会や広範囲のグループに活用していただいており、コミュニティの場になっているのが大きな特徴である。ただ、２５年以上経っていることから、建物が古くなってきている。雨漏り等の問題も抱えており、計画的な修理が今後必要になっている。また小さな駐車場があるため、週末には特に車で来られる方も多く、週末家族でまとめて本を借りて帰られるような姿が見られるが、すぐに満車になり空車待ちの列ができることで、車に関する悩みもある。

蛍池図書館は今ある図書館の中では最後できたところで、新しいうちに入る。平成１５年（２００３年）に開設した。蛍池駅前再開発のルシオーレという商業ビルの５階、蛍池公民館と同じ階にある。６階には教育センターも入っている建物にある。公民館と同じ階にある利点を活かして、連携して事業を行っている。

●事務局

もう二点、補足説明させていただきたい。

資料３の施設概要一覧に、貸出冊数と貸出人数を載せているが、実際の図書館利用では、貸出をされないで、新聞や雑誌を読みに来られる方や調べもので利用される方、集会室を利用しに来られる方もおられるため、貸出人数が利用の全体を表しているわけではない。今の統計では全体の施設利用人数が出ない形になっている。私達も来館者数を把握したいと考えて、先日地域館の岡町図書館、分館の服部図書館をモデルに、来館者数をカウントした。地域館では貸出人数の約１．５倍、分館では貸出人数の約１．７倍の来館者数があり、利用人数としてはそちらの数字が適切だと考えている。

庄内幸町図書館についての追加説明をさせていただく。資料１の地図を見ていただくと、まさしくぶどうの房のようになっており、内環状線より南の高川・庄内・庄内幸町がかなり重なっているように見ていただけるかと思うが、なおかつ庄内図書館の貸出冊数が少ない状況だが、庄内幸町図書館周辺が建った頃は人口密度がかなり高かった。ただ阪神淡路大震災の影響をかなり受け、人口がかなり減ってしまった。１キロも離れていないところに庄内図書館と庄内幸町図書館があるが、その当時は結構利用者も多かった。人口が減少し、利用も減ってきたということころで、庄内幸町図書館の運営・役割を見直

して、地域の利用者へのサービスは３階の１フロアのみにして、あとは学校図書館支援ライブラリーに機能変更した。そのなかで、効率的な職員配置も検討実施して今に至っている。

●委員長

今各施設の課題・問題点をご指摘いただいたが、今度はトータルで豊中市立図書館の機能というところから考えた時に、豊中全体の中で施設的なもので課題、個々ではなくて、豊中全体で課題となるようなものが何かあれば少し付け加えていただければ。

●事務局

全域サービスでの観点から、この地図を見ていただくと、尼崎に近い猪名川沿いの飛び地になっている利倉西。あるいは、北大阪急行の緑地公園駅近くの東寺内町は、人口は多いが図書館から遠いというところもある。そのようなところへのサービスについても目を配りながら進んでいければと考えている。

●委員長

資料３の施設概要の一覧に開館年度を加えてほしい。施設について考えるには、古いもの新しいものを分けて施設の現状を捉えなければいけないので、開館年度をきちんと入れておいてほしい。
資料を見ていると、それぞれの図書館の特徴、千里図書館には貸出冊数と貸出人数などからも岡町とは少し違ったところもあるようだし、先ほどのお話を参考にすると、野畑図書館、東豊中図書館あたりは、やはり常連の地元の方が多いのかなというふうに読み取れる。そのようなそれぞれの図書館の特徴というのも加えながら、施設の配置ということを検討していくべきかなという印象を持った。

先ほど来館者数のことを言われた。最近は来館者数、つまりどれたけの人が図書館に来たかが結構話題になるようになった。先ほど１．５倍から１．７倍と説明されたが、私自身の経験から言うと、滋賀県立図書館でも機械では来館者数を取っていなかったので、毎年１週間ほど抽出してアルバイトを雇いカウントをしていた。先ほど言われたとおり、だいたいその日の貸出人数の１．５～１．６倍という人数が実際に図書館に来館された方の数だった。ですから、多分それぐらいの係数を掛ければ貸出人数から図書館来館者数は割り出せるし、それは決して実数と隔たった数字にはならないと考える。

●事務局

すみません。図書館の職員はそれぞれ現場に配置されているので、当然サービスの充実ということを考えているわけだが、今回の施設再配置計画の主な部分として、先にも出ていた資料１１の１ページ目のところにある特定事業の見直し項目がある。例えばDのコストの項目は、冒頭にも申し上げたが市の財政状況が厳しいなか、私どもが目標として掲げているのが平成３２年度までに「市民一人あたり２，０００円を下回るコストとする」というのが目標値として掲げられている。現在のところ２，６００円で、中核市平均が１，６６７円ということで、膨らんだサービスをいかにして抑えていくかというのが、行革から与えられた宿題である。そのなかで戦略的な施設の再配置計画をどう考えていくか、というのがひとつ大きな課題としてあるということで、なかなか現場に張り付いていると言いづらい部分もあろうかと思い、再度この話をさせていただいた。なかなか２，６００円を２，０００円に下げていくというのは大変な話で、それをどういう風にしていくように考えているかというのは、また次回に資料も整

え説明させていただきたいと思う。現状として少しずつ近づいていってはいるが２，０００円を切っている状況ではない。

●委員長
当然コストのことも考える必要があるとのことだ。ちょっと確認をさせていただきたい。ここで中核市平均とされる基になる数値は、日本図書館協会調査の『日本の図書館』の図書館費がベースになっているものか。

●事務局
こちらはその当時、各中核市を対象に行財政再建対策室が独自に照会し、補足できる範囲で調査したもので、『日本の図書館』の数字ではない。

●委員長
そうすると人件費も含めた図書館総計費として出ている数字という理解でよろしいですね。
では順番に、直接テーマに関係なくてもよろしいので、図書館への要望も含めて一言ずつ発言していただければと思う。

●委員
各館のサービス概要の資料は、各館の状況がよく分かる資料になっていると思ったが、それぞれの図書館をどのような世代の人がどのような利用の仕方をしているのか、そういうところも合わせて分かるような資料であれば、もっとその図書館の様子が良く分かると思う。先ほど庄内幸町周辺では人口が減ってきて、という説明があった。それでは今どんな世代の人がその地域に住んでいるのか、というところも分かれば、もう少しその図書館自体の様子についても、理解が進むと思う。その地域の人口構成と、どのような関連がうかがえるのか、併せた資料をいただければ、検討にプラスになると思った。

●委員長
年齢別の貸出冊数はカウント可能ですね。今のお話しで行くと、年齢別の実行構成とリンクする形の年齢別・男女別の貸出人数といったものも把握できればより「やっぱり若い人があまり来られていない」とか「シルバー世代に偏っているな」と言う風な把握がより具体的にしやすいかと思う。統計に関連のものが載っているならば、ちょっとそれを教えてほしい。

●事務局
今日お手元にお配りした、「豊中市の図書館活動」の統計・資料編の１５ページから年齢別貸出人数として掲載している。地域の人口構成と比較してどうかというご意見だったが、複数の図書館を利用されている方も多いことから、利用から見て館別の利用者の年齢構成や実態をどのように特定できるかということは、非常に難しい問題である。実際のサービスエリアも１キロ半径だけと特定できないので、豊中市の人口とか、大きな形での実態との比較になってしまうと思う。対象人口のエリアが明確に区分できないこと、動線も含め様々なかたちでご利用いただいているので、ちょっとおっしゃっているように

各エリアの貸出状況と人口構成をあわせて比較ができる資料は、なかなか難しく掴みにくいのが事実である。

●委員
確認だが、半径１キロの円というのは、一応徒歩圏内という意味でとらえてよいか。

●事務局
そのとおりである。

●委員
中学校校長会を代表して出席させていただいている立場から発言させていただく。夕方から臨時の校長会があり、少し遅れて申し訳ない。
例えば野畑図書館であれば駐車場があるので車で来館されることも多いとのことだった。今１キロ圏内、徒歩圏内という話もでたが、多分複合施設の場合には、駐車場も何らかの形で確保できるとすると、アクセスの面では各図書館にどういう違いがあるのか少し知りたいと思った。アンケート調査みたいな形になるのかもしれないが、徒歩なのか自転車なのか自家用車なのか、そういったことも配置に関連してくるのかなという風に感じた。

●委員
私は小学校校長会から参加させていただいている。学校現場からの視点として、学校図書館と公共図書館の連携に関係して参加していると認識しており、ちょっと「施設」となると難しく感じるが、子どもたちは校区に一番近い服部図書館を最も多く利用していると思う。施設の改善には難しいところがあると思う。限られたスペースの中で、どう利用者にとって利用しやすいようにしていくかという事だが、駐車場の問題ひとつをとっても、服部の場合にはデイサービスの車も停める必要があるし、様々な条件下でどう改善していけるのだろう、正直難しいだろうなぁと思う。
９館ある市立図書館には、結構広いスペースの館もあるし、狭い館もある。それを今度豊中市全体としてどういう風に今後の図を描いていくのが望ましいか、ちょっとまだ個人的に意見は出せないが、考えていきたい。

●委員
幼稚園長会の代表で参加している。先ほどの資料頂いた中の、行革の改革大綱に基づく取組み総括にあるA～Fのなかで、Aの②で子育てや就労支援のための情報提供というような説明があった。私達のように、ちょうど小さな子ども達を抱えているお母さんといつも接している立場から見ると、図書館に行くと絵本を楽しむだけではなくて、保護者の方にとっても多くの子育て情報を得ることができ、そこでまた日常と違う方達と知り合うチャンスをもらうことができる、そういうところがすごく大きいと思う。今、すごく核家族化が進み保護者同士がどう繋がっていけるかということも、大きな問題になっていて、親子とも行く場所がなく、何かのイベントがあるたびに「今日は何曜日だから、○○にある催しものに行く」「次は△△に行く」という風に、回っておられる状況の中で、図書館というような拠点があ

ると、「あそこに行ったら何かに、誰かと知り合える」、「あそこに行ったらとても落ち着く」という、そんなところが図書館というように、図書館が地域の中に根差すようなものになったらいいなぁと思う。

●委員

年齢別貸出人数の推移というのを見て、ちょっと感じたことをお話ししたい。だいたいどの図書館も似ているようだが、１８歳～２１歳、それから２２～２９歳という思春期から就職・結婚と、いろいろな人生の中で大事なことを決める段階にある人達の利用が少ないという印象を受ける。考えるところがたくさんあるはずなのだが、そういう世代の利用が少ないようだというのが私の印象である。

●委員

最近はやはり色んな方法で読書ができるようになって、そういう世代の足が図書館から遠のく面もあるのではないかと感じる。図書館へ足を運び利用する事も大切なこととは思うが、様々な情報環境が発達して、図書館から少し遠のく面もあるのではないかということも感じている。

●委員

事前に渡された資料の中に１９９０年の平成２年の提言と、それよりもうひとつ前の昭和５６年の答申の２つの資料が事前に配られているが、平成２年の方の表紙を入れて７ページに「施設の構成については答申以降の諸状況の変化に鑑み、以下の通りとする」として、「中央図書館１、地域図書館４、分館７、分室５」分室を除くと１２の施設を配置することが望ましいとある。この時代はこれが方針だった。それと、もうひとつ前の昭和５６年答申の７ページの問題点についてのところ、「職員数については現在、分室・図書室が非常勤職員によって運営されているが、このサービスを正規の図書館サービスとして位置づけていくためには、すみやかに正規の職員によって代替されなければならない」とこの時代はこう書いていた。今はそれから経済状況が変わり、豊中市の財政が阪神淡路大震災を境に悪化していった。本来なら財政的に余裕があればこうしたらいいですよと諮問されたことが、今ではもうとても大変な状況になって、先ほどおっしゃったように、中核市の平均の２，０００円ぐらいにするのだというような方向が示された。これをどういう風に考えていったらいいのかと思う。

私は２０１３年６月２５日に新しく出た指定管理者制度導入についての諮問答申を検討した図書館協議会の一員でもあったが、それの９ページに「社会と個人の自由」から始まり「かつ積極的に関与することを奨励する」という図書館の役割が書かれていて、「この役割は不変であり、豊中市立図書館の使命と理念、基本目標として掲げられている。・・・これまで積み上げてきた業務体制や市民からの信頼がはたして維持していけるのかという懸念について、市としての考え方および方策を明確にし、実施および検証しなければならない。」とある。で、今回配られた資料をざっと見て、どのように図書館協議会が考えていけばいいのかという方向性があいまいであることが気になる。市がある程度明確に姿勢を示していくなかで、その上でこれらの資料があり、それを図書館協議会側がどのように考えるか。そういう風な流れでないと、検討を進めにくいような感覚を持つのだが。たとえば、分室については、平成２年の時には分室が７つぐらいと言っていたのが、現在１しかない。で、先ほど館長が言われたように、利倉西・寺内の辺りにサービスポイントが不足していてサービスが希薄になっているという。そういうところに分室を作るというようなことを、たとえば図書館協議会で論議したとしても、２，０００円の問題

が同時にある。いったいどのように考えていけばいいのかというあたりを、次回の図書館協議会までにはぜひ、そのあたりを考える筋道みたいなものを提供していただきたい。そうでないと、丸投げされて考えるわけにもいかない。そのあたりがとても心配だ。現在の図書館サービスが、ネットワークによるサービスとしてかなりきめ細かく実施されているなかで、現行のコスト２，６００円を２，０００円にするという時に、いったい何を、どのサービスなら削れるのか。削れなかった時に、やはりこれは無理難題なのじゃないかと言っていいのかどうか。そのあたりの感覚も、ちょっとよく分からないというのが正直なところだ。やっぱり市民のための図書館の役割をいろいろ考えると、これはやはり削ったらいかんのではないかと、真剣に考えるとそういう風に導き出された場合にどうなるのか。そのあたりをもう少ししっかり考えていきたいと思った。

●委員

今委員がおっしゃったことは、非常に重要だと私も思う。２，０００円の問題に関して、中核市同士を比較してということだが、その議論の時も、県庁所在地で県立図書館などが非常に近くにある自治体と横並びで比較して良いものかどうか、というような議論もあった。そういった意味で、２，０００円というのはなかなか厳しいのじゃないかと、その時もかなり議論になった記憶がある。そのなかでも自動貸出機の導入、ＩＣタグの導入などを通じて大幅にコストをカットしていくのだという話の流れであったと理解をしている。施設配置に関しては、大昔の答申では中央図書館も構想されていたということだが、今どこかを中央館の役割に特化することを考えた方がいいかというと、現状のサービス網をもとに考えると、かなり難しい面があると感じているところである。そのあたりも含めて今後の議論になってくると思うが。豊中は小学校・中学校・病院・商業施設などのどれを取り上げても、かなり分散しており、そして交通網もこれだけ複雑に入り組んでいるなかで、やはりそれぞれの地域で、ある程度のサービス量を提供していかなくてはいけないだろうし、他の市のようにどこかに大きな中央図書館をドンと造って、そこに集中するようなことはなかなか考えにくいのではないかという印象を持っている。
あとは、地理的条件で飛び地のようになっている地域などサービスの手薄になっている場所があるという話であったが、それらの利便性向上を考えるにあたっては、隣接する他府県あるいは市町村との連携も合わせて考えていく必要があるのではないかと考えている。

●委員

大きく分けて四点指摘したい。一つ目は、数字にからめとられたらいけないということが率直な感想だ。災害の時のボランティアの場面を見てきているが、そういうところで効率性を求めるとたいてい失敗する。命は効率じゃないからだ。そういうもっと素朴な議論がきっとあったのだろうが。たとえば図書館というのは、１０年に１回一人が利用する資料も意味がある、というところの仕事をしている。そこで効率性と言われると、ちょっとそぐわないような気がする。

中核市平均のコストが１，６６７円で、それと比較して云々というが、同じようなクォリティのサービスをしているところと比べて言っているのかどうか。これは同じクォリティのサービスをしている市で１，６６７円でできているのに、豊中市は２，６００円かかっているというなら、それはひどい話だが、中核市というのは人口とかでおおよそあわせていくくらいで、そこで比べるというのも乱暴な気がする。

同じようなクォリティで、同じような満足度であったり、同じような学習ができたりとか、というところと比較したときに、あまりにも豊中市はお金を使いすぎているというのならば問題だが、そうでないのだろうと思うと、あまり２，０００円という数字にからめとられるのもどうかと思う。

統計上、若者の利用が少ないということでは、阪大でも授業の中で図書館の使い方を学生に教えなくてはいけない時代になっている。まず、地域の中に図書館があることを知らない。調べるために使えることを知らない。何か調べるというと、すぐにスマホを持ってくるという状況で、ちょっとどうかと思うことが多くて、今大学生に教えなくてはいけない現状がある。それはそういう時代なのであって、いざ教えて使ってみると、喜んで使う。図書館を利用しましょうとストレートに言っても関心をひかないから、たとえば街づくりの一環として、まち歩きを企画してその中で図書館を入れ込むなどでやっていけば、統計で若者の利用が少ないというのも、端的に情報機器が発達したからだけではなくて、まだまだ工夫の余地もあるだろうと思う。そういう意味からも、あまり数字にからめとられない方がいいという印象を持った。

二番目は、図書館の老朽化がかなり問題ということだが、これは本を守ることもそうだが、地震が起こったりした時の利用者への危険性とか、また避難所としても使われるので、老朽化の問題は深刻な問題だと思う。そういう意味からは、他の視点から施設に活用できる資金を確保できる可能性もあるのではないか。

三番目は、今日のテーマの「戦略的施設配置」だが、これも資料説明を聞いた限りでは、庄内図書館と庄内幸町図書館の周辺の人口変動があったという。普通に考えると、この二つを統合すればいいという、南部コラボという構想があるとも聞く。しかし両方とも老朽化ということなので、ちょっと大胆な変更ができるとしたら、ここかなあと思いながら話を聞いたが、具体的にはまだよくわからないが。

四番目としては、利倉地域は隣が尼崎市ということなので、尼崎と戦略的にネットワークしていくことを検討するのも良いかと思った。しかし実際に行っていないので、戦略的と言ってもどの道を通ればよいかわからないのだが。しかし図書館サービスがまだあまり及んでいないというところも、そこにまさか新しい図書館を建てるわけにはいかないということだろうから、兵庫県ではあるが尼崎市との連携を検討してみれば、良いように思う。尼崎の方でも案外同じように考えておられるかもしれない。

●委員長

青少年の利用が少ないということについては、どこでも問題といわれる。しかし、その年代の人達には楽しいこともたくさんあって、本当にもっと様々なことを経験すればいいと思っている。ただ、実際図書館にいると、帰ってくる人がいる。いったん図書館利用から離れても、時が経って仕事で調べたいことがあるなどで図書館に帰ってくる人もあれば、帰ってこない人もある。だから２０代の利用だけをとらえて考えるのではなく、やはり小さい時にきちんと図書館を利用する習慣を身につけて、何かで困った時、仕事で行き詰った時には図書館に行こうと思えるような考えや習慣が身についていればいいのではないか。すると、決して１０代後半から２０代前半の若い人達に図書館に来てもらわないと困るということではないだろうと思う。来ないということが問題ではないだろうし、いずれ必要な時に戻ってこられるようなサービスを、それまでに図書館がしていたのかどうか。少し年を経て困った時に、図書館を思い起こしてもらえるようなサービスがそれまでにできているかどうかの方が、大きな問題だと思っている。あまり特化して、そこだけを問題にしてというよりも、全体を見ながら、そこをどうおさえ

ていくかということだろう。

また中央図書館の話は、滋賀県内の市町村合併の事例がまったくそのとおりあてはまる。それまで市町村が一つずつ図書館をつくってきて、市町村合併をした場合に７つの図書館がある、いまさら中央図書館をつくれない。その中で図書館のネットワークと機能をどうしていくかということ。まさに合併したときに直面した話だ。決して中央図書館という施設をつくらなくても、図書館のネットワークは作れるだろうということだと思う。その中でどう機能分担していくか。ただそこでどうしてもネックになるのは、さっき１０年に１回の資料と言われたが、保存の機能をどうするかというところは少し議論して考えていかなければならないと思うが、どうしても中央館がなければならないということではないと思う。

本当に、今まではコストの問題をボリュームで考えてきたが、これからはボリュームを求める時代は終わったと思う。クォリティで考えるべき時代になったということだろう。ボリュームが減ったからといってクォリティを落としては困るというのが市民の正直な気持ちだと思う。そうするとコストの問題というのは、ボリュームではなくてクォリティで考えていく時代が今だろうと思うので、これからの議論のなかでそこをどのように考えていくかが課題かと思う。

先日の台風１８号の際には特別警報が発令されたが、そういう事態で図書館はやはり避難所になる。やはりこれだけ地域の方々によく利用されるようになってくると、図書館に避難しようということにもなる。先日も滋賀県内の図書館のいくつかが避難所になっていた。これからの図書館は、地域の施設として、利用者の安心・安全を守るというだけでなく、コミュニティの安心・安全というものを保障していくひとつの公共施設だということは、図書館だけでなく様々な公共施設の配置計画の中では押さえておかねばならないことだろう。たぶん戦略的という中には、そうした視点も必要になってくると思う。

理念・目的がまずあって、具体的にそれをどうするか。お金の問題があるので、どこかで取捨選択していかなければならない。それは図書館として一定の覚悟をもって、それをやらざるをえない時代だと思う。その中で、何を大切にしていってどのような覚悟を持って、どのような取捨選択をするのかということがおそらく問われることだろうと思う。そうしたなかでは、図書館側としてこれからの方向性といったものをもう少し示してもらうなかで、具体的な議論を次の回に展開していければと思う。
細かな統計などの話もあったので、あともう少し皆さんにわかりやすいような資料を提供してほしい。

それでは時間も押し迫ってきたので、議題３その他について、事務局からどうぞ。

●事務局

その他として、一つ目のご報告は、豊中市立図書館の中長期計画（豊中市立図書館グランドデザイン）についてご報告させていただきたい。これは昨年度前半の図書館協議会でも原案を検討していただいたものである。今年度に入りパブリックコメントにかけて、様々な市民からご意見をいただいた。そのご意見に対する考え方を、現在教育委員会の中でまとめているところである。
二つ目のご報告は、「豊中市の図書館活動平成２４年度版」について。出来上がりが９月末と遅くなり、本日配布させていただいた。ご覧いただいた後に、またご意見をいただきたい。本編と統計・資料編の２冊からなり、本編の方は、前半に年度の特徴的なことをトピックスとして掲載し、後半は業務報告という構成にしている。できるだけ表で示せるものは表で示し見やすくするよう努めた。外部評価部会においても、今行っているサービスのＰＲに問題があるという指摘をいただいており、２５ページに情報

発信という項目を設けて、図書館が発信できていることについては記述するようにした。また、豊中の図書館の特色のひとつでもある人権に関する取組については、新たな項目を設けて記述した。またご意見をいただくようお願いします。

最後のご報告は、今年度末に予定している図書館システムのリプレイスについてである。昨年度、緊急雇用対策事業として、支援が必要な就業困難な方々へ今後の就業支援につながる研修など含む機会を提供するとともに、市民サービスの利便性向上のためにＩＴＣ環境の整備を行った。具体的には、図書館資料へのＩＣタグの貼付が、ほとんどの資料について終わった。来年２月までで現行の図書館システムがリース切れを迎えることもあり、ＩＣタグへの対応を含むシステムリプレイスへの準備をしている。

また、今年度のはじめからすでに本格運用を開始しているものとして、学校図書館支援システムがある。これは、市内の小中学校図書館の蔵書管理システムであるとともに、市立図書館の蔵書をあわせて１７０万冊の蔵書を一体的かつ効果的に活用することを可能にする仕組みで、授業活用事例のデータベース機能などで構成されている読書活動支援システムである。これが今年度４月から本格稼働していることをご報告したい。

●委員長

その他についての質問・ご意見があればどうぞ。

●委員

その他の一つ目の豊中市立図書館中長期計画（グランドデザイン）へのパブリックコメントを実施後、市の考えを取りまとめ中ということだが、公表についてはいつ頃をメドとしているのか。

●事務局

今教育委員会内で策定に向けて調整中で、公表の時期を今はっきり申し上げることは難しい。

●委員長

市としてのこれからの方向性や考え方がそこに書かれるので、今回の諮問にも大きくかかわるものだと思う。公表できるようになりしだい、委員に送ってください。

●委員

「豊中市の図書館活動　平成２４年度版」については、ざっと見た感じでは分かりやすく編集されているという印象だ。広報についても実施していることが分かるように書かれていることは嬉しく思う。

●委員

今日の議題から少し離れるが、図書館のホームページの図書館協議会の結果というところで、いろいろ掲載されているのを開いていくと、見にくいものがあったのだが。

●事務局

機械的な問題と図書館側の問題を少し整理させていただきたいので、後ほど個別にお話をうかがいた

い。

●委員長
　ほかに意見がなければ、本日の協議会を終了する。

●事務局
　次回の図書館協議会の開催については、１１月２６日（火）１８時３０分～２０時３０分の開催を予定している。また開催会場についても、施設配置がテーマなので他の館での開催も検討したい。

●委員長
　岡町以外の館で開催の場合、見学の時間を少しとっていただけるとなおよいと思う。では、本日の協議会を終了する。